

NEWS

〒179-0074 東京都練馬区春日町4-1-18 TEL.03-5987-4688 FAX.03-5987-4689

<http://www.npo-takumi.or.jp> info@npo-takumi.or.jp

INDEX

- 2 | 年頭所感……………毛塚 宏
- 3 | 第一期匠塾開講
- 6 | New Member's Voice ● 鶴田 裕、武田一久、澁澤 徹
- 7 | Coffee Break ● 「調査事業」について……………澁澤 徹
- 8 | 部会動向
- 8 | 事務局だより

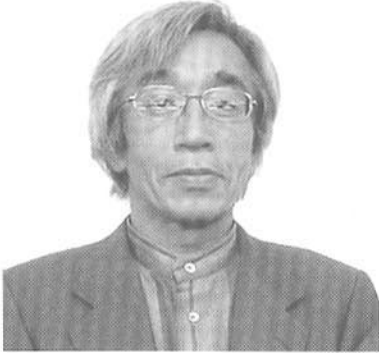


第1期「匠塾」が昨年7月より開講されましたが、その入塾式が7月12日、練馬区の練馬区役所19階会議室において開催されました。「匠塾」とは、建築業界からより良いリニューアル技術者を育成し輩出すること目的として設立されたもので、年1～2回の開催を予定しています。

年頭所感

消費者と技術者が共生する 支援組織をめざして

代表理事 毛塚 宏



わが国における分譲マンションは、現在427万戸（平成14年度末、国土交通省資料）のストックがあり、その内、首都圏に半数以上が集中しており、近年は20万戸前後増え続けているといえます。その陰には当然のことながらリニューアルを要する分譲マンションが増え続けるという悩ましい問題が横たわっています。そうした状況のもと、平成15年10月、公正取引委員会より「マンション管理・保守をめぐる競争の実態に関する調査—公正かつ自由な取引の実現に向けて」のレポートが出されました。これは管理会社に対し競争原理を働かせながら、消費者に対してより良質で安価なサービスが提供するよう警告を発したものであります。この警告は管理会社にだけ当てはまることではなく、施工会社やコンサルタント会社などにも言えることです。一方、消費者はといえば、共有財産としてマンションを捉える意識が希薄で、しかも進みゆく老朽化を直視する危機感にも乏しいのが実態です。

そうした実態に対応する支援組織がいろいろ存在していますが、「匠」の特色は、技術者と消費者が問題を共有しつつ、両者の好ましい関係の構築をめざしているところにあります。現在、「匠」では、賢い消費者の育成の観点から、管理組合セミナーや交流会の開催、加えて相談室の開設や調査診断に関するアドバイス、さらには総合的なコンサルティングなどに取り組んでいます。また、優れた技術者の育成の観点から、座学と実技研修を組み合わせた匠塾の開催、工事の品質確保に関する仕様書づくりなどに取り組んでいます。しかし、残念ながら、法人設立3年目とはいえ、多くのニーズに即応できるほどの体制をまだ整ってはいません。まずは「人づくり」と「ネットワークづくり」に力点をおきながら、消費者及び技術者への支援組織として着実かつ真摯に事業展開をしていきたいと考えているところです。

さて、今、「匠」では面白いプロジェクトが立ち上がろうとしています。このプロジェクトは70年住み続けられるマンションの繕い方を建築・設備などの技術者が共同研究しようというものです。新築マンションにおいては長寿命化研究も進んでおり、既にその対策を講じたマンションも販売されていますが、老朽化が進む既存マンションに対する長寿命化対策に正面から取り組む動きは少ないのではないのでしょうか。実は小生が住むマンションでも5～6年前に築60年を前提とした長期修繕計画を策定していますが、計画をローリングするなかで、さらに10年延長した場合を想定した見直し作業に着手しているところです。こればかりは、実態としての建物や設備の老朽化や陳腐化、住み手の超高齢化を軽視して数字だけで考えるべきことではありませんが、長く安心して住み続けるために、今から何をなすべきかを考えることはとても重要なことです。またそうした発想が新たな素材やリニューアル技術などを開拓するチャンスでもあります。その意味でこのプロジェクトの進展に大いに期待をしたいと思います。

第一期「匠塾」開講

匠塾 入塾式

約5ヶ月にわたる講義を修了

NPO法人匠リニューアル技術支援協会主催の第一期匠塾が昨年7月より開講されました。

開講に当たっての入塾式は7月12日（土）、東京・練馬区の練馬区役所19階会議室において行われました。当日会場には、入塾生やNPO匠の関係者など数多くつめかけ、開講を祝うとともに、初日より中身の濃い講義に耳を傾けていました。

「匠塾」とは、建築業界内からより良い建築リニューアル技術者を育成し輩出することを目的として設立されたもので、年1回もしくは2回行われることになっています。

入塾式は午前10時に開講、開会挨拶として毛塚宏・代表理事より挨拶の後、「NPOと協会の活動」というテーマで小野瀬福彦・事務局長より解説が行われました。引き続き現場管理報告として「外壁下地補修」の事例報告、建物調査報告として「外壁他調査」の事例報告がそれぞれ行われました。NPO匠が進める品質管理システムを実施してきた管理者および職人による事例報告だけに中身の濃い内容となっており、参加者は真剣に耳を傾けていました。

昼食をはさんで午後から講演が行われました。演題は「格闘防水の歴史」で、元大成建設の鶴田裕氏を講師に行われました。鶴田氏は、永年の防水研究の中から得られた様々な情報を、これまで発表された資料やOHPを使用して詳細に説明、氏の永年にわたる建築防水との格闘を真剣な語り口で解説されました。

講演の後、「匠の世界」と題し、板金工として活躍されている森田和夫氏（協会正会員）により、本来の意味での匠とはどのようなものなのかを淡々と語っていただ

きました。森田氏の実直な性格そのままの語り口は参加者の目を釘付けにしていました。

続いてハイホーム小平の管理組合元理事長・渡辺昭久氏による「消費者の声」と題する話しがあったのち、登録認定証の授与式が行われ、入塾式は無事終了となりました。

この後、「匠塾」は毎月1回の専門講座が行われました。今回の専門講座は「建築防水基礎講座」と「防水下地として重要な「コンクリートの話」の2講座が開催され、参加者は毎回毎回午後6時30分から9時までの講義を真剣に取り組んでいました。



講演するハイホーム小平・渡辺氏

第1期匠塾 開講



鶴田 裕氏



匠塾のもよう



武田一久氏

匠塾・開講の意義と第一回の内容について——— 玉田雄次

建築仕上げ業に携る技術者は技術と技能そして精神面において絶え間なく進歩していかなければなりません。また、進化はその時代に合わせたものでなくてはなりません。

しかし、現在の施工技術は時代の要求に即応しているのでしょうか。

例えば、良質の建物をつくることと維持保全することでは、目的や必要とされる技術が異なり、前者は先人よりの伝承技術を身に付ければ容易にできるでしょうが、後者はその伝承技術に長持ちさせる技術が要求されています。皆さんは如何でしょうか、伝承技術が長持ちさせる技術も併せ持っていると思いませんか。

長持ちさせる技術とは、自分が塗ったものや張ったものだけを捉えた技術でなく、建物を全体的に捉えて塗ったものや張ったものを長持ちさせる技術を言います。

例えば、築10年のマンションの改修工事で鉄筋爆裂補修が完了した共用廊下の天井を塗装する場合、通気型かガスバリアー機能を持つ仕上材を使うかで、下地補修箇所と塗装材及びコンクリートの寿命は大きく影響を受けることになります。この場合の材料選定をする上で必要な知識の一つとしてコンクリートの知識が挙げられます。

コンクリートは炭酸ガスに触れることにより中性化が進み、中性化はやがてコンクリートに覆われている鉄筋にまで進みます。この時点より鉄筋は水分に触れることにより腐食し、次第にコンクリート強度は低下し、適切な処置を

しなければ建物の寿命は早期に尽きてしまいます。この知識があれば誰でも、瞬時にガスバリアー機能を持つ仕上材を採用するでしょう。

もし、通気性の仕上材を採用すれば引渡し後の3年点検時には鉄筋爆裂補修跡に沿ってひびわれが発生し、5年点検時にはその部分がすこし押出され、7年点検時には全面が築10年当時とほぼ同じ状態に戻り、築20年目には10年前より悪化してしまい、結果として消費者に多大な被害をもたらすでしょう。

このように、それぞれの職種において長持ちさせる技術を身に付けるためには、建築知識を身に付けることが必須となります。しかし、幾ら教育を受け、技術や技能を身に付けようとも、そこに心がなければ良い仕事はできません。このような問題を解決するためにNPO匠は塗装及び防水技術者を対象に技術・技能・精神面に関する勉強の場として匠塾を創設し昨年より塾生の受入れを開始しました。

匠塾では、上手・速いではなく、何故 つくるのか、何をどのようにつくらなくてはならないのかなど“疑問”、“思考”、“応用”を基本テーマとしものづくりの原点を学びます。

NPO匠は、匠塾を通じ人間性のより高い技術力を有する技術者を数多く輩出することにより、業界改革及び技術者の地位の向上を実現させたいと考えております。

主体性をもった施工を目指そう

私は“屋台風”の店で、そこの「あるじ」と会話を交わしながら一杯飲むのが大好きである。調理してくれている人の気持ちが信頼につながり、いつの間にやら頭の中に好みの店の地図が描かれている。その殆どが、安くて美味しい店で、高いけれどもまいのは当たり前、したがってカッコウだけつけた“高くてまずい”店は付き合いで行く以外は縁がない。

建物、特にマンションのリフォームとなると、その住人にとっては、今まで付き合いがなかったので急には会話を交わせる「あるじ」のいる店が見つからないのが実態であろう。マンションを建設“させて”それを“売る”側から見れば食べるのは自分ではないし、食べた人が「此処はまずい店だな」と気がついて、後の祭り。安いがまずいものを食べさせる店が有ったとしても不思議ではない。人の舌にも個人差があるから、“味”に興味を持たない人もいるだろう。しかし、傾向としては食

べる前に「お毒見」しようと考えている人が増えてきていることは事実だし、当然の成り行きだろう。

私は折に触れ、新築工事とオーケストラは同じであると述べている。ゼネコンは指揮者、サブコンは個々の楽器の奏者、材料メーカーは楽器メーカー、建物の使用者は聴衆という説であるが、普通のリフォーム工事であれば個々の楽器奏者あるいは二～三種の楽器奏者のグループで間に合うし、事実アンサンブルという小規模の奏者による曲もある。この例で言うと食べる人と聴衆は同じ立場の人々である。また食べに行きたくなる、また聴きに行きたくなるような気持ちにさせる、気持ちの通った仕事をするためには、今までのようなゼネコンに言われたとおりだけではなくて、自分で主体性を持って工事に当たることであろう。バックアップのお手伝いをさせていただくつもりである。

鶴田 裕

専門講義を担当して

明るい未来を見たような気がした

私はこれまで、社内研修、社外研修、学協会の講師、学校の講師などを体験してきて、人前で話すことが一般の人よりも多かった。その経験で言うと、並べた順番のとおり、つまり自社の社員、他社の社員、学協会員、学生の順で話をよく聴いてくれていたようである。つまり、自費ではなく会社持ちで研修をうける方たちは、多分義務感・責任感からであろうか、話をよく聴いてくれるのに、学生や学協会員は自分（あるいは保護者）が費用を払っているにもかかわらず、その見返りとしての講師の話あまり真剣に聞いていない、という感想をもっている。

こういう下地があって、匠塾の講座に臨んだ。匠塾は、多分自費であろうし、講座は土曜日の仕事を終えた後の

午後6時30分から始まるという条件からすると、半分近くは寝込んでいるかあるいは心ここにあらずの状態になっていてもしょうがないか、という気持ちでスタートした。ところが、びっくりした。全員の眼がこちらに集中して、専門外のコンクリートの話を一所懸命に聴いてくださるではないか！知らず知らずのうちに、負けてはいけないという気になって、話に力が入ってしまい、予定していた時間はあっという間に過ぎ去ってしまった。技術者の高齢化・未熟練化が伝えられている中で、日本も捨てたものではないぞ！ひょっとすると将来は今よりもずっと良くなるかもしれないな！という希望を見たように思った。講座に熱が入ってちょっとくたびれたが、その疲れは心地よいものであった。

武田 一久

三つのマーク

このたび、本協会の正会員として入会させて頂きました。よろしくお願ひ致します。

車を運転していると、時折免許取得1年未満の“若葉マーク”をつけている車を見かけます。私は昭和33年の夏休みに当時1500cc未満の車まで運転できる「小型四輪車」で免許を取得しましたが、当時はこのマークの制度がなかったため経験していません。今改めて免許証を見ると、何も手続きした記憶がないのに、普通車と大型自動二輪が運転できることになっていますが、更にもう1年前までに取得した人には2種免許も付与されているようです。45年以上も乗り続けていることになりませんが、昨年免許証を更新した時に、「貴殿は、次回5年後に更新する時は70歳を越えていますので、運転適性指導を受けて下さい」といわれ、具体的には車を運転してもらいますとのことでした。今使っている車は10年を越えているので、この車を最後に車がかたひれるか、私がかたひれるかのどちらかの時に運転からお別れするか、はたまた一念発起して今生最後の車を買おうかを考えているときだったので、いささかショックでした。追い討ちをかけるようにして、高齢者運転の“紅葉マーク”も今度70歳から引き下げられたのでお忘れ無きように、更に肢体（手足）不自由と認定された場合は、条件付きで“四葉マーク”が必要になりますともいわれ、安全第一の面から、高齢者の運転を暗に規制しようとの姿勢を感じとりました。

そんな折、本会から入会のお誘いを受け、どうやら紅葉マークや四葉マークの雇用義務もなさそうだし、新車購入は断念しそうですが、匠リニューアル技術支援協会正会員という名の“若葉マーク”付の新車購入を決意した次第です。重ねてよろしくお願ひ申し上げます。 鶴田 裕

「軟らかい面もあるが、硬い面もあるし、どっちが本来の姿なのだろうか」

このたび、当協会に入会しました武田と申します。入会のきっかけは、ある日突然、匠塾の講師をこのたび同期に入会された鶴田裕氏に依頼されたことにあります。鶴田氏は防水材料・工事の専門家で、この世界では有名な方です。そして、以前から匠塾の座学の講師を勤めておられたとのことでした。鶴田氏と私は、某建設会社の研究所で、鶴田氏は防水、私はコンクリートの研究者として席を並べてともに仕事をしていた仲です。というよりも、鶴田氏は私の先輩であり、上司でもありました。

その鶴田氏から、分かりやすいコンクリートの話をしてくれないかと頼まれたのは今年の8月の初旬でした。コ

ンクリートの話を聞いていただけのならば、と考えて承諾いたしました。それ以降、当協会とのお付き合いが始まり、入会に至ったというわけです。

さて、一般の方がご存知のコンクリートは、既に固まってしまった後の硬いコンクリートだと思います。しかし、その硬いコンクリートの性質を決めてしまっているのは、実はまだ固まる前の段階の軟らかいコンクリートです。コンクリートの研究をしていると、硬軟両面の姿を知らなければなりません。40年近くそのようなコンクリートを相手にして、仕事を続けてきたからでしょうが、私も、硬そうに見えるけれども実は軟らかい、あるいは人によっては軟らかそうだが相当に硬い人間であるように見えるようです。自分自身でもどちらが本当の自分なのかは分かりませんが、コンクリートは私にどちらもお前なのだよ、と言ってくれているように思っています。

他の会員の方々は、専門分野が違っていますが建築物を良くしていきたい、という気持ちは同じだと思いますので、今後ともよろしくお願ひいたします。 武田 一

「き っ か け」

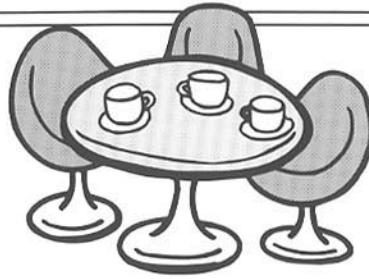
「NPO」っていったい何？ 立ち上げ時真剣に説明をしてくれていた小野瀬氏……。しかし理解はできないまま入会をしてしまいました。セミナー等に参加していくにつれ、なんとなく・なんとなく自分の中で「なるほど」と薄々感じ始め、「自分でもこの活動に真剣に参加したい。」と思い始めることができるようになりました。人生に於いて、いろいろな出会いがあり、別れがあります。小野瀬氏の真剣さが「きっかけ」で今、いろいろな人との出会いが始まりました。職人さんであり管理組合の皆さん等々。もし、この「きっかけ」がなければ、僕の「抱えている、ものづくり」は、自分だけの満足によるものに過ぎなかつたのでは……

真剣に取り組む匠の「ものづくり」は、建物だけでなく職人にも目を向けている。人の育成もやはり「ものづくり」である。匠塾は職人さんに現場では経験できない「きっかけ」作りをしているところがすごいと思う。何かをそこで掴み現場に活かせれば、経営者にとってはこれほどのことではない。

自分も匠の活動を始めて驚かされるのが沢山ありますが、一つ一つ吸収していき、「今後に活かしていければ」と思います。一企業では絶対にできない！この匠のシステムはこれからの社会情勢では必ず認められることになると思います。そのとき、匠のメンバーとして「活動をしていて良かった。」と誇りに思えるのではないのでしょうか。

今後、一人でも多くの職人さんや管理組合の皆さんにご満足していただけるよう、惜しまず努力をしていきたいと思っております。

自分にとっての「きっかけ」は皆さんありますか？ 気が付いていないだけでも……。 濫澤 徹



「調査事業」について

事業を始める時、まず企画を立て事業として成り立つか？事業計画を作りますが、一般の企業であれば、時間との勝負になります。そこで企画倒れになるケースが多々あり、なかなか物事が進まず企業体質が変わらない為に立ち遅れてしまうケースがあります。しかし、「匠」は企業ではない。自分たちの理念の追求の為に「企画」した事を消費者へ訴え続けたことが、やっと・やっと理解されるようになってきた1年ではなかったかと思えます。

セミナーを通して数々の管理組合の皆様にご会いして思ったところは、とにかくにも「不信任」が一番であると言うこと。数年前であれば「こんなものですよ！」で終わってしまったかもしれないが、現在の状況はあまりにも違いすぎる。それは、消費者が「おがしいことはおがしい！」と言えるようになってきている。これはたくさんの情報が入るようになったからだと思う。(バブル後の景気低迷があったおかげ。)匠が行うセミナーがそれを増幅し、今後とも益々期待が高まるではないかと思う。

昨年、ある建物の調査を匠が請けたのも、「不信任」からでした。なるほど、調査を始めていくとおがしいことだらけでした。建物は外見上はきれいに見えるのですが、いざ設計図書と見比べてみると全然違う。消費者は、モデルルームで何千万円もの部屋を買う。がしかし、建物本体がどう作られて、どのような仕上がるかは、入居するまでわからずに購入する。しかし、たとえば塗装仕上とタイル仕上では資産価値違うはず、消費者はタイル仕上げと思って買って、塗装仕上げであつたらどうなるのか？・・・施工会社の言い分を聞きたいものだ！現在でもまだ結論はでていない。また、管理組合が大手に改修工事を依頼したケースは、「大手だから安心」がキーワードで発注。これが大失敗の元となり完全に信用は失墜状態になっている。大手ゼネコンの場合、工事の監理をする立場の者が、ほとんど下請けの意見を聞き入れ彼らの仕事がやりやすい方向で仕事を進めるケースが多々あり、仕様書通りの施工はまず行われない状況です。

(なぜなら、請負金額が安いのが、原因)だから、仕様書組みを行う設計事務所等はいい加減な仕様組みしか作らない。時代劇の殿様よろしく、*良きに計らえ!!*これでは、いいものづくりが出来るはずもなく、手を抜かれても当然!!

それと不動産管理会社が何もしてくれないので、不動産管理会社の変更をした管理組合の人達も、上記のように「大手に変えたから安心。」と多少管理費が安くなった程度で、修繕積立金は逆に2.5倍に上がった。管理会社曰く、「このままで行くと大規模修繕時に積立金が不足する。」と言う理由でだそうです。ここでもやはり、「不信任」建物の調査もしないで、簡単に今後の予定をマニュアルに沿って行ってみても、建物は全て違うから、長期修繕計画を立てる前に、事前の調査・診断は、必ず必要となる。

このように、いろいろなケースを経験してきましたが、この「不信任」が何処の管理組合の方々にもあるようです。これは今までの建築業界の「つけ」がバブルが弾けたことにより露呈することになった。特に、改修工事を行う場合は経験・技術が必要とされる。設計士と肩書きがあれば何でも出来ると思っている消費者が殆どだと思いますが、そこがそもそも間違いの始まりです。また、施工会社についても同じ。

「不信任」を取り除くためには、「施工の良心」を持って、その建物に望むことが大切である。そのためには、細部にわたり気を配ること。消費者に満足してもらうのではなく、消費者を満足させる。にはどうしたらいいかを、考えることが重要ではないでしょうか？そのためには時間と労力がかかります。しかし「匠」は一企業ではなく、多くの企業の技術者集団で構成しています。消費者皆様の財産をより永く延命できるよう、真剣に取り組むことが出来ます。これが「匠」の良さです。

私は、今後も『を』を基本に於いて「匠」の活動に参加していきます。

澁澤 徹

消費者支援部会

セミナー関係では、一般区民や管理組合関係者を対象とした「快適マンションライフ講座（5回シリーズ）」を、昨年7月に板橋区で、11月に練馬区で開催しました。練馬区でのセミナーは練馬公民館との共催によるものです。セミナー終了後は参加者との交流会も行っています。また、和光市主催の「マンション問題に関する意見交換会」に大規模修繕工事をテーマとした講演に講師を派遣したりもしています。

相談関係では、品質確保部会と連携し、管理組合からの専門的、技術的な相談に対して専門家を派遣しアドバイスをしたり、管理組合からの大・中・小修繕工事などに関連した建物調査・品質検査・仕様書作成などの依頼に対し、専門家グループを派遣しコンサルティング業務を行っています。

その他では、これまでのセミナー参加者との交流機会の拡大やホームページにおける消費者コーナーの充実などに取り組んでいます。

技術者支援部会

NPO法人匠リニューアル技術支援協会に専門業者及び技術者を登録しようと考えておられる経営者及び技術者が、技術向上及び基礎知識修得を計る目的とした、第1期「匠塾」が平成15年7月から5ヶ月間（月1回）にわたり30名が参加して開催され、専門講師及び協会認定メーカー、協会の品質確保部会等のご協力を頂き、防水編の座学及び実務研修を終了いたしました。

参加受講生の皆様が、各回午後6：30から9：00の遅くまで、しかもお仕事の終わった後の疲れた体にもかかわらず熱心に講義を聞いていらっしゃる姿に感心させられると共に、やはり勉強する事が必要であると痛感致しました。

引き続き、第2期「匠塾」を、平成16年2月14日（土）に練馬区役所会議室にて入塾式を行い、5ヶ月間（月2回）にわたって行なわれます。

特に今回は、防水編、塗装編と要望の多かった「コンクリート編」を加えて内容の充実を計りより多くの技術者に開放し参加して頂こうと思います。詳細については、事務局の方へお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先・TEL03-5897-468 FAX03-5987-4689

今後は、技術者支援部会として、第1期、第2期の修了生に対し、品質確保部会と協力し、7月開催予定の現場実技試験を行ない、合格者に対し協会登録技術者認定証の発行が行な

われることとなります。協会と致しましても、一人でも多くの優秀な技術、知識を修得された技術者を輩出出来ますよう応援をし、また、各メディアに名簿を掲載して消費者の目に止まるように応援して参りたいと思います。

今期より、技術者認定登録員の更新手続きが始まります。技術者支援部会と致しましては、より高度な技術及び知識修得のため研修会開催を予定いたしており、認定員の更なる向上を目指して参りたいと思います。

品質確保部会

部会として、幾つもの調査を手掛け、危惧する点があります。建物修繕の礎である建物調査診断を手抜きすれば当然、建物を補修する処方箋を間違ったり、補修しなくてはならない工事項目を抜かしたり、或いは工事数量が極端に少なかったりと建物に悪影響を及ぼします。厄介なのはこの手抜き調査等による結果は改修後10年前後にならないと具体的に表面化しないことです。ですから、気が付いたときには手遅れになる場合も有りえるでしょう。

残念ですが、このような問題を抱えた建物が今後、相当数発生すると考えられます。この結果責任を誰がどのように始末するのでしょうか・・・。

お陰さまで、2月現在、建物調査診断の依頼件数が進行中も含め4物件となりました。部会は関与する建物調査診断物件が上記のような結果にならないよう、正しい調査診断技術を以って、委託業務を遂行していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

IT化推進部会

IT化推進部会の当初の目的は、1）他部会の行う事業に対するIT武装のサポートをすること。2）NPO匠の情報発信を的確・正確・迅速に行うこと。3）NPO匠の持つ情報を一元化し、いつ、誰でも、どこでも情報を引き出せるようにすること。このようなところにあつたと思います。

現在のところは、まだまだことような目的をクリアできていない状態でありますので、今年度も残り少なくなりましたが、少しでも当初の目的に近づけるように努力していきたいと思ひます。

事務局だより

平成15年度の第3回通常総会において議案承認されました（東京都から内閣府へ）認証移行が、平成15年10月1日付けにて内閣府より認証されました。直ちに、練馬区、さいたま市の両法務局への届出も終了し、埼玉支部が誕生致しました。今後は、他のNPO法人等との連携も視野に入れた更なる行動を考えて行きたいと思ひます。

消費者部会の報告と重複すると思ひますが、平成15年度は市区町村、管理組合単体にての消費者セミナーの開催が活発に行なわれております。特筆すべき点として、練馬区立練馬公民館様のサポーターズ講座において共催を頂き第1回を開催出来た事であり、今後も継続して共催頂き開催出来るようになった事です。

今後は、各市区との協調を考え、消費者セミナー開催をより積極的に行い、より一層の公共性、公益性を維持し他のNPO法人との違いをアピールし、HP等に公表しつつ行動して行かなければならないと思ひます。

協会設立4年目を迎え専門分野に優れた正会員の加入を頂き一歩進んだ協会運営が可能となり、消費者セミナー、「匠塾」等において抱えている

諸問題をひとつひとつ解決しながら、協会の目的でありますマンション居住者の保護、技術者の教育に繋げ、ひとつ、ひとつのマンション問題の解決、一人一人の技術者の地位の向上に結びつけて参りたいと思ひます。

従来より参加しております、いたばしボランティアフェスタ2003、ねりま産業フェスタ2003等にも出展し、他組織との交流を深め「NPO匠」の存在感を示し、公共性のある協会に務めております。

最近各部会の活動が活発化してきており、事務局として各部門間の連携を計ると共に、より情報を集約し正確な情報の発信が求められてきており、IT部会とも相談しながらより正確な公表をして参りたいと思ひます。

技術者支援部会にてお知らせ致しましたが、第2期「匠塾」が2月14日（土）から始まります、正会員の層のお力添えをお願い致します。

今期から、技術者登録認定者の更新が始まります、より高度な技術修得を目指した研修会も計画致しており、ますます研鑽して頂きたいと思ひます。